

TOYOTA new

HIACE

ハイエースファン



ハイエースなくして、我が人生なし!

NO HIACE NO LIFE

ボディ
タイプ別

ハイエース ライフスタイル図鑑



最新コンプリート
モデル
セレクション
17
NEW COMPLETE
16 MODELS SELECTION

“故郷”を巡る、
にっぽん自遊旅

岡山
OKAYAMA



個性派オーナー集結!

ハイエースで広がる 遊びのフィールド

自分にぴったりの1台を探す!

200系「解体新書」



NO HIACE NO LIFE

ハイエースなくして、我が人生なし!

ボディタイプ別

ハイエース ライフスタイル

図 HIACE
LIFE
STYLE 鑑

200系ハイエースがデビューしてから、ちょうど10年。
この10年間で街やフィールドでその姿を目にする機会は数えきれないが、
ボディサイズやキャンピングカーとして架装を施した場合の使い勝手など
今、あらためて200系ハイエースについてさまざまな角度から考えてみた。
もちろん、現ハイエースオーナーたちの「ハイエースのある暮らし」も紹介。



INDEX

P.20 ~ 31

ボディタイプ別 **200系ハイエース解体新書**

巻の一

ボディサイズ検証 — 同じ「ハイエース」でも、三車三様の車格 —

巻の二

取り回し感覚検証 — 最小回転直径から見るボディサイズの差 —

巻の三

運転席からの視界検証 — ルーム&サイドミラーから見る後方視界 —

巻の四

3車種使い勝手検証 — ベース車とその特徴を生かした架装形態 —

巻の五

ボディサイズから見ええた、シチュエーション別「使える」1台



P.32 ~

ハイエースで広がる遊びのフィールド





ボディタイプ別
**200系
ハイエース
解体
新書**

“広く”、“長く”、そして“高い”ハイエースは、
使用人数や用途に合わせて、
サイズ違いのさまざまなボディタイプから
自分に合った1台を選択できるクルマだ。
そんな「ハイエース」を、ラインナップ中の
3つのボディサイズを軸に徹底解剖する。

文=石川純久 写真=野上浩一／宮越孝政

ボディサイズ検証

— 同じ「ハイエース」でも、三車三様の車格 —

一口にハイエースといっても、グレードによって「全長、全幅、全高」の数値は大きく異なる。

まずは、今回題材車として用意した

3台のロングボディのハイエースをボディサイズの数値から比較した。



辻井美香

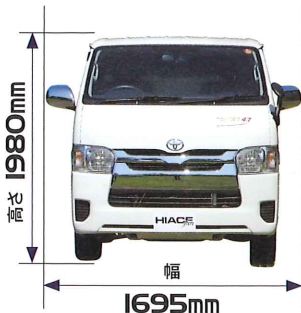
●今回の検証でアシスタントを務めるのはモデルの辻井美香さん

RV BIGFOOT SWING L 4.7

RVビッグフット／スイングL4.7

ナローボディ

幅 ナロー(標準)
長さ ロング
高さ 標準ルーフ



●全長 5m 未満、全幅 1.7m 未満の小型車格に収まるハイエースのなかで唯一の 4 ナンバー (小型貨物) 車。大きく見えるが、実際は 5 ナンバーの小型乗用車と変わらないコンパクトサイズ。ただし室内 (荷室) の広さは商用 1 ボックスの雄のみに恥じない広大なもので、3 ナンバーのミニバンすらしのぐ広さだ

CARINTERIOR TAKAHASHI Relax Wagon Brave

カーいんてりあ高橋／リラックスワゴン ブレイヴ

ワイド・ミドル

幅 ワイド
長さ ロング
高さ ミドルルーフ



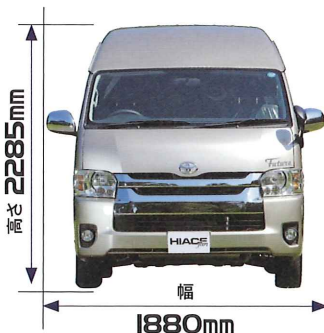
●ボディの長さはナローボディに準じたもの (全長の違いはバンパーなど外装パーツによる) だが、全幅を大きく広げ、その拡大分をまるまる室内幅のワイド化に反映。また、わずかにかさ上げされただけに見えるルーフも、室内高で 70mm の拡大 (スーパーGL での比較) を実現している。外観以上に広い室内だ

Vehicle Future

ビークル／フューチャー

スーパーロング

幅 ワイド
長さ スーパーロング
高さ ハイルーフ



●もっとも大きなボディのスーパーロングはホイールベースも上記 2 車種に比べ 540mm も延長され、その延長分がそのまま荷室長の拡大に当てられている。荷室床面積は 6㎡ 強。4 畳近い広さを誇っている。さらに荷室高は 1635mm と、小柄な大人なら立ち上がっても天井に頭が触れないほどの空間を実現した

現

行の 200 系ハイエースのボディタイプは、大きく分けて

「ロングボディ・標準幅・標準ルーフ」の通称「ナローボディ」と呼ばれるもの、「ロングボディ・ワイド幅・ミドルルーフ」の通称「ワイド・ミドル」と呼ばれるもの、「スーパーロングボディ・ワイド幅・ハイルーフ」の通称「スーパーロング」と呼ばれるものの 3 種類がラインナップされている。このほかに、ナローボディにはハイルーフも用意されているが、全長と全幅は変わらない。

200 系デビュー以来、スーパーロングはその圧倒的な室内の広さでキャンピングカーやトランスポーターのベース車として絶大な人気を誇っている。車中泊の快適性や積載量を決定するのは、荷室の広さに他ならないからだ。だが、5m を大きく超える全長と 1.9m 近い全幅は運転の面で、二の足を踏むユーザーがいたのも事実。駐車場事情が厳しい都市部などのユーザーには、小型車格に収まるコンパクトさで取りまわしもしやすいナローボディも魅力的な選択肢となった。

コンパクトとはいえ、ミニバンよりもはるかに広い室内は、2 人旅用のキャンピングカーベースとして、高い需要がある。また、7〜10 人程度の多人数乗車ができて、なおかつ大きな荷物も積み、さらに車中泊も快適にこなせる欲張りなトランポ＆ワゴンのベース車として、全幅と全高を拡大したワイド・ミドルが昨今人気を集めている。それぞれ特徴のある 3 種のハイエースを、徹底的に分析してみよう!

取り回し感覚検証

— 最小回転直径から見るボディサイズの差 —

ホイールベースが抜群に長いスーパーロングを筆頭に、ハイエースを運転するとき気を遣うのが旋回時の取り回しだ。そして、購入時に気になるポイントでもある。ここではボディサイズ別に右折時のシミュレーションを試みた。



ナローボディ
結果: **915cm**



ワイド・ミドル
結果: **920cm**



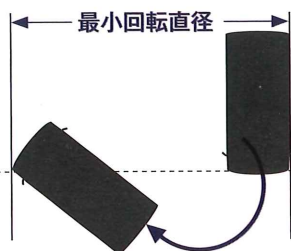
スーパーロング
結果: **1147cm**



検証

「Uターン直径」を計測!

どれくらいの道路幅であれば、
切り返しなしでUターンが可能なのか?
Uターンに必要な幅、つまり最小回転直径を
3台のハイエースで計測してみた。



●もっとも小回りが利くのはやはりナローボディ。5ナンバーのコンパクトカーに匹敵する小回り性能を発揮した。片側1車線の対面通行道路でも、路肩に余裕のある場所ならば切り返しなしでUターンが可能だ。「ハイエースは大きいから運転が大変」というのは、単なる思い込みすぎないことを実証する実験結果だ

●1880mmという、アルファードやエスティマ以上に幅広のボディにもかかわらず、ナローとほとんど変わらない小回り性能を発揮したワイド・ミドル。じつは最小回転直径はボディ幅よりホイールベースが大きく関わってくる。ハイエースのロングボディはアルファードやエスティマよりホイールベースが40cm近く短いため、小回りが利くのだ

●シリーズ最大のボディ長を誇るスーパーロングは、やはり回転直径も大きかった。片側1車線の道路だと、切り返しせずにUターンするのは難しいかもしれない。だが3ナンバークラスのミニバンと比較しても、その数値は同等か下回るほど。5mを大きく超えるボディ全長で、この回転性能は立派というほかない。狭い道も意外と大丈夫!?

今 回の実験は、幅の広い道路でのUターンを想定して行なった。ハンドルをいっぱい切った状態で走行を始め、進行方向が完全に逆になった時点、つまり180度ターンでの回転に要する距離(「直径」)を計測してみた。カタログのスペック欄などでは「最小回転半径」が表記されていることが多いが、今回の計測数値は、あくまでも「直径」であることに留意していただきたい。ボディが大きく、小回りが苦手な印象のあるハイエースで、どれくらいの道路幅があれば切り返しせずにUターンできるのか? 2WDモデルの3種類のボディ別に見てみよう。

当然といえば当然の結果だが、もっとも小回りが利いたのは、やはりナローボディだった。直径の計測値915cmは半径に換算すると約4.6m。この数値はコンパクトカーのヴィッツやキューブに匹敵する小回り性能だ。ボディ外観の印象からはちょっと信じられないくらい小回りが利く狭い道でも運転が楽といえる。健闘したのが次点のワイド・ミドル。回転直径920cmは半径換算で4.6m。こちらもコンパクトカー並みの小回り性能だ。対してスーパーロングはやはり小回りは苦手で、計測数値は10m超えの1147cm。とはいえ、半径換算で約5.7m強という数字は、アルファードと同数値。エスティマ(5.9m)よりも小さい。前輪切れ角の大きい商用車ということ差し引いても、両車より50cm以上も長いボディでこの数値は立派といえる。スーパーロングも意外と小回りが利くのだ。

運転席からの視界検証

— ルーム&サイドミラーから見る後方視界 —

フロントタイヤの上部に運転席が設けられたハイエースは、いわゆるキャブオーバータイプ。

ミニバンなどのクルマとドライブポジションは異なり、もちろん運転席からの視界なども変わってくる。そのあたりをチェックしてみた。



検証②

左右サイドミラーからの後方視界をチェック

左右のサイドミラーから見える後方視界は、実走行時には車線変更時の併走車確認や右左折時の巻き込み防止のためにも、しっかりチェックするべき項目だ。ここでは各ボディタイプの幅の違いや全長の違いによってどのように左右のサイドミラーからの見え方が変わるのか？ ミラーの視野の広さも変わるのか？を確認してみた。



ナローボディ



●ナローボディのルームミラーから見える後方視界は、ワイド・ミドルとほぼ共通。確認できるパイロンは、前から3本目となり死角になる範囲も同程度といえる。リヤバンパー直後の4m程度。コンバクトで取りまわしのしやすいナローボディといえども、車庫入れなどの後進時には慎重な操作と安全確認が必要だ



●右サイドのミラーの見え方はワイド・ミドルとほとんど同じ。視野角も変わらない。ボディ下方の見え方も良好だ。左側ミラーの視野角は、ワイドボディと比較すると運転席からの距離が短くなるため、ほんのわずかが広く見える。とはいえ、やはりボディサイド下部に関しては死角が存在する。注意が必要なことに変わりはない

ワイド・ミドル



●ワイド・ミドルのルームミラーでは、確認できるパイロンは前から3本目となった。スーパーロングに比べると、かなり死角が減ったように思えるが、それでもリヤバンパー直後の4m程度はルームミラーで確認できない可能性が高い。リヤゲート上部のアシストミラーにもパイロンは映っていないので、死角を完全になくすことはできない



●右側（運転席側）の視野は良好。ボディサイド下部も比較的よく見える。左側（助手席側）のミラーは、ナローに比べると運転席からの距離がやや遠くなるため、実際の視界の中でミラーそのものが少し小さく感じる。同じ理由で、ミラーに映る範囲もほんのわずかが狭くなっている。スーパーロングほどではないが、左下側に注意しよう

検証①

ルームミラーからの後方視界をチェック



リヤバンパー後方に2mずつ間隔を開けて6本のパイロンを設置。ルームミラーでパイロンが何本見えるかを確認する。ミラーの中で一番手前に見えるパイロンより車体側には、実走行時に死角となりうる範囲といえる。運転席が高い位置にあり、ボディ後端までの距離も長いハイエースでは、リヤバンパー周辺は死角となりやすいはずだ。

スーパーロング



●スーパーロングはほかの2タイプよりボディ全長が50cm以上も長く、その分、運転席からリヤバンパーまでの距離も遠い。ミラーで確認できるパイロンも前から4本目となり、バンパー直後6m程度は死角になってしまう。また、ボディの長さのせいで、ルームミラーに映る範囲も他の2タイプと比べると狭い。家具などがあればさらに狭くなる



●リヤタイヤを基点にパイロンを設置しているため、他の2タイプよりミラーとパイロンの距離が離れていて、その分ミラーから得られる視野は広く感じられる。ただしミラーの視野（角度）そのものは変わらないので、後方ほど対象物が小さく見えるのと、ボディサイド前寄りの死角が大きい。小さな子供などが近くにいる場合は要注意だ

運

転席がフロントタイヤの上に位置するキャブオーバー型のハイエースは、長いボンネットを持つ乗用車などに比べ、路地から大通りに出るときなどの左右の見切りに関しては良好な視界を得られる。

だが長く角張ったボディのため、後方や側面の視界に関しては死角が大きいことも事実。そこでルームミラーとサイドミラーが、運転席に座ったときにどのように見えるか（どこが見えないか）を検証した。

「検証①」ではリヤバンパー後端から2mおきにパイロン（カラーコーン）を置いて、ルームミラーから何本見えるかを確認。見えない本数×2mが、死角となる距離ということになる。

「検証②」では、リヤタイヤの左右に50cmおきに同じくパイロンを設置し、サイドミラーからの見え方を確認。こちらも見えないパイロンの位置が死角となりうる範囲となる。

検証①での後方視界に関しては、やはりルームミラーで見える範囲は非常に限られるということがわかった。特にスーパーロングは、ミラーに映る角度も狭くなり、車庫入れなどはルームミラーだけで後進するのは少々慣れが必要だ。バックアイカメラなどのアシストがあると運転は非常に心強い。

サイドミラーに関しては各ボディタイプとも良好な視界を得ることができたが、左側ミラーはやや視界が狭く感じられた。また、運転席が高い位置にあるため、ボディサイドの下部は死角になりやすい。運転時はこの点も頭に入れておこう。

ワイドボディ スーパーロングハイルーフ
Vehicle Future
ビークル／フューチャー

ボディタイプ別
200系
ハイエース
解体
新書

●セカンド&サードシートを展開することで、大人3人が余裕を持って寝られる広いベッドスペースが生まれる。さらにキャビン後部には横向き就寝のチャイルドベッドが2人分用意され、ファミリーキャンプでもゆとりのある就寝環境を享受できる



2人旅からファミリーキャンプまで、 優雅でぜいたくな時を大切な人と

ハイエースシリーズ最大の室内スペースを誇る、ワイド・スーパーロング・ハイルーフボディは、広大な床面積もさることながら、ハイルーフ化による1635mmという高い室内高（バンDX）が大きな魅力であり、アドバンテージといえる。これだけの室内高があれば、床や天井に特別な加工を施さなくてもキッチン前の室内高1600mm以上をそのまま満たすし、車内で立ち上がっても腰をかめたりする必要がなく、ダイネットからキッチンの移動もストレスフリー。また、室内幅1730mmというサイズだからこそ実現できる横向き就寝のベッドは、車内の縦方向のスペースを犠牲にすることなく就寝定員を稼ぐことができる。実際、縦向き就寝だけでこのフューチャーと同じ大人3人＋子供2人という就寝定員を実現しようとする、2段ベッドなどの装備が必要となり、ダイネットやキッチンの居住空間が就寝時以外も犠牲になってしまう。フューチャーに限らず、スーパーロングボディをベース車とするキャンピングカーの利点は、「広い床面積による内装レイアウトの自由度」、「横向き就寝ベッドによる居住空間の拡大」、「頭上空間の広さによる快適性、開放感の向上」の3点が挙げられる。ボディに大きな改造を加えることなく、オリジナルの室内スペースをそのままに室内を架装するバンコンバージョンでは、長くて幅があつて高いスーパーロングは他に代え難い最高の素材なのだ。

ビークルのロングセラーモデルで



●セカンドシートを後ろ向きに反転し、ベンチタイプのサードシートとともに、最大7人でテーブルを囲むコの字タイプのダイネットとしてくつろぐことが可能。足下空間にも余裕があるので、車内での移動もスムーズだ



●シンク横の2段ベッドの二段マット台座は、調理台としても使える広いテーブルとなっている。シンクの給排水タンクは各10ℓ。シンクはベッドマット敷設時にも使用可能だ



●セカンド&サードシートをフラット展開すれば、幅1700mm×長さ1800mmの広いベッドスペースとなる。ベッド展開時も冷蔵庫やシンクが使用可能なのはとても便利だ



●ワードローブの下部にビルトインされた冷蔵庫は容量49ℓ。もちろん標準装備となっている。冷蔵庫下のスペースはコンロなどの調理器具を入れるのに便利



●アーチ型パーティションに装備されるリヤスปีカーは標準装備。車内の換気には効果が高い、リヤゲート上部のベンチレーター（換気扇）も標準装備だ



●後部2段ベッドのサイズは、幅1700mm×奥行き680mm。子供用ベッドの扱いだが、大人が寝ても問題のない、充分な耐荷重強度を与えられている



乗車定員 **9 or 10人** || 就寝人数 **3+2人** || 登録ナンバー **8**

価格: **423万1000円**~(税別)

主要装備: シンク / 10ℓ給排水タンク / 40ℓ冷蔵庫 / 電子レンジ / DC12V&AC100Vコンセント / 室内断熱・防音処理 / テーブル / ラウンドカーテン / 集中スイッチパネル / 外部電源入力 / 走行充電システム / 105Ahサブバッテリーほか



●リヤ2段ベッドのマットを取り外せば、キャビン後部は広く高さのあるラゲジスペース&キッチンスペースとなる。1600mmを余裕で超える室内高により、調理時の姿勢も窮屈さを感じることがない。また、この状態ならば自転車なども積載可能だ

あるフューチャーは、スーパーロングの利点を最大限に活用し、走行時、停車時、就寝時を問わず、さまざまなシーンで快適な居住性を提供。スーパーロングベースのキャンパーのお手本のような存在だ。3列目シートをコの字タイプの横座りベンチシートとすることで、乗車定員は9人（バンベースは10人）と多人数乗車を實現。反転可能なセカンドREV Oシートでコの字型のダイネットを構成することも可能。ベッド展開時には前述のように3人+2人というファミリーキャンプでも不足のない就寝を實現している。

さらにキッチンもキャビン後部に配置し、ワードローブとアーチ型パーティションを設けることで、ダイネットの独立性と開放感を高めている。また、シンクや冷蔵庫はベッド展開時でも使用可能なレイアウトで、これも実際の使用での利便さ、快適さを高める大きな要因だ。

収納装備は前述のワードローブのほかに、上部収納庫やシート下の収納庫など豊富に用意されている。そのため快適な居住空間をスポイルすることなく、寝具や衣類、調理用品なども機能的に整頓して収納することができる。

ラゲジスペースに関しては、リヤ2段ベッドのマットを取り外すことで、背の高い大きな荷物も積載可能なサイズに拡大することが可能だ。タープやツバーバーナコンロ、テーブル&チェア程度ならリヤベッドマットをそのまま「棚」として活用することで、積み下ろしが楽なカーゴスペースとなる。

シチュエーション別“使える”1台

ボディタイプ別
200系
ハイエース
解体
新書



ワイド・ミドル

ナローボディとほぼ同じ全長で運転時の取りまわしのしやすさを実現。ワイドボディとミドルルーフによる室内空間のゆとりで居住性や積載性の大幅な向上を実現した、ナローボディとスーパーロングの“いいとこ取り”モデルといえるのがワイド・ミドルだ。また、ベース車両にワゴンGLが用いられることが多く、乗車定員も10人の多人数乗車が可能なモデルが多いのも魅力。ただし荷室長はナローと同じ最大3000mmなので、長さのある荷物の積載は注意が必要。就寝人数も乗車定員ほど多くはないことも考慮する必要がある。



いいとこ取りが
常に短しタスキに長しかは
あなたの使い方次第

こ
これまでハイエースの3つのボ
ディタイプをさまざまな角度
から比較してきたが、どのボディタ
イプを選ぶにしろ、どのような使い
方をするのか？ ハイエースを使っ
て何をしたいのか？を購入前にしっ
かりとイメージすることが、賢いハ
イエース選びの基本ということは何
もない。

例えば「いろいろなことのできそう
だから、とりあえず一番大きいスー
パーロングを買おう！」という人も
いるかもしれない。でもちょっと待
ってほしい。確かに「大は小を兼ね
る」という考え方はある意味正しい。
だが、実際に買ってみたら乗るのは
せいぜい2〜3人、荷物だつてバツ

グ程度。なんていうことになったら、
まさに宝の持ち腐れ。ただの空気運
搬車になりかねない。
運転感覚の不安や駐車場事情だけ
でナローボディを選ぶのも早計とい
える。確かにコンパクトで、クラス
最大級の室内容積を誇るクルマだが
キャンピングカーとしてベッドや家
具を架装すれば、それだけ荷室容量
は減ってしまうし、乗車定員だつて
制約が出てくる。「思ったほど乗れ
ないし、荷物も積めない」なんて不
満が出てきても、購入後では文字ど
おりのあとの祭り。より充実した生
活を楽しむためにハイエースを買っ
たはずなのに、不満ばかりでは本末
転倒である。



絶対的な広さでは敵なしだが
その大きさゆえの弱点も？



スーパーロング

200系ハイエースシリーズ最大のボディサイズと室内スペースを誇るスーパーロングは、その圧倒的な広さが魅力だ。キャンピングカーベースとして考えた場合、乗車定員はもちろん就寝人数も余裕のあるレイアウトが可能だ。荷室長は最大で3540mmもあり、大型バイクなどのトランスポーターベースとしても最適。ただしそのボディの大きさゆえ、狭く入り組んだ道路では運転に不安を感じる可能性もある。駐車時も一般的な駐車場では駐車スペース枠に入り切らなかったり、自走式立体駐車場では高さ制限に引っかって進入不可能なこともある。



ボディサイズから見えてきた、

— ベース車とその特徴を生かした架装形態 —

ここまで3つのボディサイズのハイエースで検証を行なってきたが、
はたして、それぞれの適した用途とは？

トランポか夫婦2人旅か、はたまたファミリーユース？

これからハイエースの購入を検討している読者には見逃せない
シチュエーション別に使える1台を詳解！



CE
fin



ナローボディ

長さ4.70メートル以下、幅1.70メートル以下、高さ2.00メートル以下という「小型自動車」の枠内に収まるコンパクトさと、取り回しのよさが魅力だ。コンパクトとはいえ、車内スペースは3ナンバーのミニバンを余裕で上回る広さを持っている。だが、キャンピングカーや車中泊車のベースとして考えるとひと工夫が必要か？ 就寝人数は2人+αが快適に寝られる作りが使いやすいといえる。逆にいえば、積載力優先のトランポや2人旅キャンパーとしては過不足なく、運転も楽なクルマになる可能性がある。



**コンパクトで取りまわし抜群!!
割り切った使い方ならば満足度は高い**

では、ナローボディとスーパーロングのメリットを併せ持つワイド・ミドルがベストバイクかといえば、一概にそうともいえないのが難しいところ。うまく使いこなせば、いいところ取りで1+1が2+αになってくれる可能性もあるが、使い方を間違えるとナローボディほど小回りは利かないし、スーパーロングほど荷物は積めないという、中途半端なクルマになってしまいう危険性もある。

結局のところ、同じ「ハイエース」という名前でありながら、これだけサイズの違うラインナップをトヨタが用意しているということは、それだけ多様な使い方にマッチしたサイズのクルマを選んでほしいという、メーカー側のこだわりでもある。

例えば、「車中泊もできるバイクトランポが欲しい」と考えたなら、まず優先しなくてはならないのは積載するバイクの台数とサイズに合わせ

た荷室容量だ。小型のバイクならナローボディでも積載可能だが、大排気量の大型バイクならスーパーロングでないといえないこともありうる。また、車中泊する人数は最大で何人なのか？ 車中泊時もバイクを車内に積載するのか？といった細かい使用条件も事前に考慮する必要がある。キャンピングカーや車中泊車としてのハイエースを考えている場合も同じ。ハイエースにいつしよに乗って旅行をするのはだれなのか？

車内で就寝するのは最大で何人なのか？ 調理設備やシャワーなどの装備は何か必要なのか？といったことを詳細に検討しイメージすることで、自分が欲しいハイエースのサイズや必要な装備が見えてくるはずだ。

冒頭でも書いた「ハイエースを使って何をしたいのか？」をしっかりイメージすることが、賢いハイエース選びの極意といえるだろう。

